

# 令和3年度学校自己評価システムシート (県立本庄高等学校)

目指す学校像	活力ある進学校～個性を伸ばし、持続可能な社会のリーダーとして世界にはばたく「高い志」を持った生徒の育成～
--------	--

重点目標	1 質の高い学びを実現するカリキュラムマネジメントの実践及び、授業の工夫改善とICTの活用を図る。 2 学校行事、部活動及び探究活動の活性化と、第1志望を実現する進路指導を充実させる。 3 国際理解教育及びSDGs教育と、地域に開かれ信頼される学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	○大学入試改革に対応・進学実績の向上を目指す基本的体制は整っているが、コロナ禍への対応も含め、ICTの活用には更なる研究と実践が求められる。  ○新学習指導要領への移行は順調に進んでいる。大学入試共通テストへの対応等、高大接続改革を踏まえたカリキュラムマネジメント、授業改善を推進する必要がある。	①進学実績向上に向けた体制の整備。ICTの授業への活用	①-1 企画委員会・将来構想検討委員会の協議を踏まえた、進学校にふさわしい授業時間の確保等、学習支援・進路指導体制の整備。 ①-2 授業へのICT活用に向けた取組の実践と共有。	①-1-1 企画委員会を中心に学校運営体制の見直し検討が進んだか。 ①-1-2 生徒アンケートで補習・学習支援に関する項目が前年比増加したか ①-2 授業へのICT活用は進んだか。					
		②新学習指導要領を踏まえた教員の授業力の質的向上。カリキュラムマネジメントの実践	②-1 定期テストの共通化、模試分析会の実施、観点別評価の適正化。 ②-2 教育課程委員会を中心としたカリキュラムマネジメントの実施、教員相互の授業公開、管理職による授業観察。	②-1 生徒アンケートで「わかる授業、力をつける授業を行っているか」が7割を超えたか。 ②-2-1 大学入試改革・目指す学校像に合わせたカリキュラムマネジメントが進んでいるか。 ②-2-2 教員相互の公開授業が延べ60講座を超えたか。					
2	○学習活動と、生徒主体の学校行事や部活動の両立を奨励し、探究活動を意識した実践を進め、自ら学び、自ら活動する「高い志」を育てる。  ○学年と進路指導部が連携した組織的で、きめ細かい進路指導の実現。 ○一般受験で第1志望の大学進学を目指す進路意識の育成と学力の向上を進める。	①生徒主体の学校行事と部活動の活性化	①-1 部活動参加者の増加と活動の活性化、生徒主体の学校行事の充実。 ①-2 コロナ禍に対応しながら『部活動にかかる活動方針』に基づく適正かつ効率的、効果的な部活動運営。	①-1-1 生徒アンケートで学校行事に関する項目が充実しているかが7割を超えたか。 ①-1-2 生徒アンケート「生徒の自主的活動が活発」が7割を超えたか。 ①-2 生徒アンケートで「学習と部活動が両立できている」が7割を超えたか。					
		②第1志望の進路を実現する進路意識と学力の向上	②-1 きめ細かい科目選択指導・個別指導実施と、入試改革に伴う的確な進路情報の提供。 ②-2 生徒の実情把握と進路検討会を活用した適切な進路指導、学年・進路指導部を中心とした組織的・計画的な進学補習の充実。	②-1 生徒アンケート「進路指導はきめ細かい指導か」が7割を超えたか。 ②-2 自分の進路決定先に満足・ほぼ満足の生徒が8割を越えたか。					
3	○世界を舞台に活躍する意欲を育てる国際理解教育、SDGsに係る教育の充実。 ○今後の中学卒業生徒数の減少を踏まえた組織的・計画的な生徒募集の実現。 ○コロナ禍にあっても、十分な情報を提供し、また、PTA後援会、同窓会、並びに地域との連携を強化して、中学生や保護者、県民の期待に応え、生徒や同窓生が自信をもって誇れる「活力ある進学校」の実現。	○持続可能な社会を目指す現在において、世界を感じる国際理解教育の推進と自ら学ぶ学習意欲の向上。	①オーストラリア姉妹校との連携の継続(オンラインの活用と現在まで培った経験の継承、渡航再開時への準備)。 ② アクティブラーニングや探究活動など生徒の学習への意欲を高め、主体的学びを促す授業実践の充実。	①オンラインを活用した連携が実現できたか。現在までの経験を生徒の学習に活用できたか。体制の継承はできているか。SDGsについての学習機会の創出など、持続可能な社会構築に資する生徒を育てる活動ができたか。  ②生徒アンケート「学校は生徒の個性や能力を伸ばしている」が7割を超えたか。					